



VOLVO CAR JAPAN

Press Release

2014年12月18日

国内で販売する全車種に高度な安全・運転支援システムを標準装備

- 10種類以上の先進安全・運転支援システム「IntelliSafe10(インテリセーフ・テン)」を、ボルボ全モデル、全グレードに標準装備
- オートブレーキを含む、先進安全装備の全車種標準装備化を完了
- “ビジョン 2020”の実現に向けて、大きく一歩前に踏み出す

ボルボ・カー・ジャパン株式会社は、日本国内で販売する全車種に、安全・運転支援システム「IntelliSafe10(インテリセーフ・テン)」を標準装備とし、発売を開始します。

ボルボはこれまで、オートブレーキや ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)など、先進の安全・運転支援システムを「セーフティ・パッケージ」と呼び、各モデルに標準装備またはオプション設定してまいりました。このたび、このパッケージに新たに「リアビューカメラ」を追加し、合計 10 種類以上の先進安全装備および運転支援機能を「IntelliSafe10 (インテリセーフ・テン)」と呼び、国内で販売する全モデル、全グレードに標準装備化しました。これは、ボルボが掲げる、「2020 年までに、新しいボルボ車において、交通事故による死亡者や重傷者をゼロにする」という目標“ビジョン 2020”の実現に向けた取り組みの一環です。



報道関係者お問い合わせ先：
ボルボ・カー・ジャパン 広報室：03-5404-8611
<http://www.volvocars.co.jp>

2009 年、ボルボは他メーカーに先がけ日本で初めて、前方車両との追突を回避・軽減するために完全停止するオートブレーキ「シティ・セーフティ」の認可を取得し、XC60 に標準装備として導入しました。以来、シティ・セーフティの全ラインアップの標準化を推し進め、2011 年には、車両に加え、歩行者との衝突を回避・軽減する機能を備えた追突回避・軽減フルオートブレーキ・システム「ヒューマン・セーフティ」を新たに導入するなど、先進安全・運転支援システムの積極的な導入を続けてまいりました。

安全・運転支援システムの広範な普及を目指すため、「全車速追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)」や、デジタルカメラにより道路標識を読み取り、制限速度等の情報をメーターパネルに表示する「RSI(ロード・サイン・インフォメーション)」、ヘッドライトの照射範囲を自動制御し、対向車や前走車のドライバーの眩惑を防ぐことで、夜間走行時に明るく広い視野を確保する「フル・アクティブ・ハイビーム」など、数々の先進安全・運転支援機能をパッケージオプションとして広範なモデルに設定し、普及を図ってまいりました。

日本市場へのオートブレーキ導入の歩み

2007 年 「追突警告機能」導入(S80/V70/XC70)

2009 年 「追突軽減オートブレーキ」導入(S80/V70/XC70) 輸入車初

2009 年 「シティ・セーフティ(低速用追突衝突回避・軽減オートブレーキ)」導入
(XC60、完全停止する自動ブレーキとして、国内初)

2011 年「ヒューマン・セーフティ(歩行者検知機能付追突回避・軽減フルオートブレーキ)」導入
(S60/V60、続いて XC60/V70/XC70/S80)
XC90 を除く全モデルに、「シティ・セーフティ」の標準装備化完了

2013 年 「ヒューマン・セーフティ」に、サイクリスト検知機能導入
「シティ・セーフティ」の作動速度域が 4km/h～30km/h から 4km/h～50km/h へと拡大
V40 シリーズに「ヒューマン・セーフティ」を含む「セーフティ・パッケージ」を標準化

2014 年 全モデル・全グレードに、オートブレーキを含む高度な安全・運転支援システム
「Intelli Safe10」を全車に標準装備

IntelliSafe10(インテリセーフ・テン)について

運転者をアシストする「Assist(アシスト)」、事故を未然に防ぐ「Prevent(プリベント)」、万一の際に全ての乗員を守る「Protect(プロテクト)」、この 3 つの領域に包括的に取り組むボルボの安全哲学が「IntelliSafe(インテリセーフ)」です。このうち、10 種類以上の先進安全装備および運転支援機能「IntelliSafe10(インテリセーフ・テン)*」により、万一の際に乗員の安全を守ります。*モデルにより、標準装備の内容が異なります。

- 「歩行者・サイクリスト検知機能付追突回避・軽減 フルオートブレーキ・システム(ミリ波レーダー・デジタルカメラ・赤外線レーザー方式)*」

フロントグリル内に組み込まれたミリ波レーダー、フロントガラスに装着されたデジタルカメラと赤外線レーザーやコントロールユニットによって構成されます。ミリ波レーダーは、前方の障害物を検知して、その位置と物体までの距離を常に測定し、カメラは物体の種類を識別します。赤外線レーザーおよびデュアルモード・レーダー(ロングレンジ、ワイドレンジ)の広いスキャンエリアにより、対象物の検知を容易にしています。高解像度カメラが緊急時に止まるべき車両、歩行者そしてサイクリストを識別します。4～200km/h の範囲で作動し、35km/h 以下では衝突を回避、それ以上の速度では前走車との速度差に応じて追突を回避または軽減するものです。対人検知は 4～80km/h の範囲で作動、夜間は解除されます。

*従来の「シティ・セーフティ」と「ヒューマン・セーフティ」を統合したオートブレーキシステムの新呼称

- 全車速追従機能付 ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)

任意に設定した走行速度内で前方走行車両との安全な車間距離を一定に保ちながら追従するクルーズ・コントロール機能です。30km/h までの低速走行時は、前方車両が停止するまで自動的に追従し、ステアリングのボタンを押すかアクセルを踏みこむと追従を再開します。30km/h 以上では、希望の走行速度と前方車両との最低時間差を選択するだけで、必要に応じて速度を調整。レーダーが前方に低速走行車を検知すると、その車両の速度に自動的に合わせます。また進行に支障がない場合は、設定走行速度に復帰します。

- 車間警告機能

ACC が作動していないときでも、常に前方走行車両との車間距離を検知し、接近しすぎると前方車両との適切な車間距離を保つよう、フロントガラスの低い位置に警告灯が点灯します。ドライバーに適切な車間距離を保つよう注意を促します。

- DAC(ドライバー・アラート・コントロール)

65km/h 以上で走行中に、路面上の車線、ステアリングホイールの動きに加え、走行の軌道をデジタルカメラなどを使用して総合的にチェックします。通常のドライビングスタイルから逸脱した操作や、疲労や眠気など注意力散漫な傾向を検知すると警告音を発し、同時にメーターパネルに休憩を促すメッセージを表示します。

- LDW(レーン・デパーチャー・ウォーニング)

65km/h 以上で走行中に、デジタルカメラが車線を記録し、路上の車の位置を監視します。ドライバーが意図せず車線を越えたと判断した場合、警告音を発します。車線を越える走行や一時的な不注意が原因で発生する衝突を回避するセーフティ・テクノロジーです。ウィンカーを出して意図的に車線を越えた場合は、作動しません。(V40、V40 Cross Country および S60/V60 T5 エンジン搭載車を除く)

- LKA(レーン・キープ・アシスト)

65km/h 以上で走行中に、デジタルカメラで自車が走るべき車線を監視し、守るようにサポートする機能です。ドライバーが気づかないうちに蛇行した際には、車線に近づくと車線内にとどまるようにステアリングを穏やかに自動修正します。それでも車線逸脱をしてしまうような場合はステアリングを振動させてドライバーに警告を発します。(V40、V40 Cross Country、S60/V60 T5 エンジン搭載車に標準装備)

- BLIS(ブラインドスポット・インフォメーション・システム)

ミリ波レーダーセンサーまたはドアミラーの下部に装着されたCCDカメラによって、車両の両サイドの後方や側面のミラーの死角を併走している車やバイクを監視。その存在をインジケーターでドライバーに知らせ、より安全な車線変更をサポートします。

- LCMA(レーン・チェンジ・マージ・エイド-急接近車両警告機能)

ミリ波レーダーセンサーによって、常に後方の道路状況を監視。車両の両サイドから急接近する、衝突までの時間が 3.5 秒未満、70m 以内で急接近する車両をインジケーターで警告し、その存在を知らせます。(V40、V40 Cross Country、S60/V60/XC60 に標準装備)

- CTA(クロス・トラフィック・アラート)

ガレージなど視界がさげられた駐車スペースから後進で車を出す際に、左右から接近してくる車両などを検知、ドライバーへ警告を与えます。リアバンパー左右のミリ波レーダーはそれぞれ半径 30m、80 度の扇状の範囲で車両を検知、リバースギアに入れると自動的に作動します (V40、V40 Cross Country、S60/V60/XC60 に標準装備)

- RSI(ロード・サイン・インフォメーション)

デジタルカメラにより道路の制限速度や追い越し禁止標識等をチェックし、その情報をメーターパネル内に表示します。5km/h 以上制限速度を上回った際には、シンボルが一時的に点滅して警告を発するよう設定することも可能です。重要な道路標識情報の見逃しを防ぎ、安全な走行をサポートします

- リアビューカメラ

車両後方の映像をディスプレイに映し出し、後進時の安全確認を容易にします。また、ディスプレイ上に表示される誘導ラインに沿うことで、より安全かつスムーズな駐車が可能となります

- 全席シートベルト・プリテンショナー

衝突時にシートベルトのゆるみを取りのぞき、より確実に座席に体を固定することで、乗員が前方に飛び出すことを防ぐ機構です。ボルボでは前席だけでなく、後列真ん中のシートも含めた全5席にこの乗員保護機能を備えています (S60、V60、V70、XC70、S80)

- フル・アクティブ・ハイビーム

カメラセンサーを利用して対向車のヘッドライトや先行車両のテールライトを検知し、対象となる車両の両サイドではハイビームを維持しながらも、車両に直接向けられる部分のみをロービームで照射し、眩惑を防ぎます。対向車や先行車両のドライバーに、まぶしい思いをさせることなく、常に明るく広い視界を確保できます。20～150km/h で作動。対向車は 400～700m、先行車は 300m までの範囲で反応します (S60/V60 T4 SE 以上、XC60 T5 SE 以上のグレードに標準装備)

- アクティブ・ハイビーム

ヘッドライトスイッチをオートモードに設定して、ハイビームを選択した場合、カメラセンサーが対向車のヘッドライトや先行車両のリアライトを検知し、自動的にハイビームからロービームへと切り替えます。センサーが、そのようなライトを検知なくなると約1秒後にハイビームに戻ります (V40、V40 Cross Country、S60/V60 T4、V70、XC70、S80 に標準装備)